KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

連体修飾節における「ガ」と「ノ」の交替について：連体動詞句と被修飾名詞の関係から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2020-09-16 キーワード (Ja): ガ・ノの交替, 連体修飾節, 内の関係, 関係づけのかかわり, 属性づけのかかわり キーワード (En): 作成者: 光信, 仁美 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007943

関西外国語大学 研究論集 第112号（2020年９月）
Journal of Inquiry and Research, No.112（September 2020）

連体修飾節における「ガ」と「ノ」の交替について

── 連体動詞句と被修飾名詞の関係から ──

光　信　仁　美

要　旨

「太郎 が/の 飲む酒」「お茶 が/の 入ったグラス」のように連体修飾節内の主体を表す「ガ」と「ノ」は交替が可能である。しかし、連体動詞句と被修飾名詞のかかわりの意味的なタイプの違いによって、使用傾向に差異がある。本稿では、連体動詞句と被修飾名詞の間に格関係が成立している、いわゆる内の関係の連体節において、連体動詞句と被修飾名詞がつくる意味的なタイプ（「関係づけのかかわり」「属性づけのかかわり」）と、「ガ」と「ノ」の使用率との関係を分析した。その結果、連体動詞句の動詞にテンスがあり、被修飾名詞と「関係づけのかかわり」にあるとき、動詞句内の主体はノよりもガを用いる傾向がある。連体動詞句の動詞にテンスがなく、被修飾名詞と「属性づけのかかわり」にあるとき、ガよりもノを用いる傾向がある。また、同じ「属性づけのかかわり」にありながら、属性の種類によっても使用率が異なる、という結論を得た。

キーワード：ガ・ノの交替、連体修飾節、内の関係、関係づけのかかわり、属性づけのかかわり

０．はじめに

次の例の連体節に用いられている助詞ガとノは、連体節内の動詞が表す動作の主体[1)]を表し、それぞれを置き換えて用いても連体節が表す意味に違いはない[2) 3)]。本稿では、この現象をガ・ノの交替という。

（１）　薫の描いた自画像は、わたしがもらった。（水81）

（２）　ちなみに、私が書いた小説には、ドイツ語の作品も日本語の作品もある。（エクソ95）

（３）　ひっきりなしに煙草を吸い、ときおり日本酒の入ったグラスを口に運びながら松原の話に耳をかたむけていた東氏はひとこと、……（ゆりかご219）

（４）　缶詰が入った段ボールはとうていひとりでは持ちあげられないほど重く、ふたりで両端をつかんで、……（ゆりかご243）

上記のような連体節[4) 5) 6)]を形成する修飾要素を連体動詞句と呼ぶことにする。上記の連体動詞句と被修飾名詞[7)]の関係は、寺村（1975-1978）の分析した「内の関係」[8)]、すなわち被修飾名詞と動詞述語の間に格関係が成立している場合である。「自画像」「小説」は「描いた」「書

いた」とヲ格の関係にあり、「グラス」「段ボール」はそれぞれ「入った」とニ格の関係にある。

また、次の例のように、ガ・ノが表すモノと被修飾名詞が「部分 - 全体」(「先 - 鉄棒」「先 - スプーン」) の関係にあり、被修飾名詞がいわゆる提題の関係にある場合がある。この場合も内の関係といえる。

(5) 少年は先の尖った鉄棒が連なってできた門を、両手で握りしめた。(月198)
(その鉄棒は先が尖っている)

(6) 食器といえば先が割れたスプーンで、これはフォークの役目もはたす……(ひと皿313)
(そのスプーンは先が割れている)

一方、高橋 (1979) は連体動詞句と被修飾名詞を意味的な関係から分析し、類型を提示しているが、それによると、(1)(2)は関係づけのかかわり、(3)(4)(5)(6)は属性づけのかかわりにタイプ分けできる。「関係づけのかかわりは、特定の時間に成立する動作や状態によって関係づけるものであって、動作主が特定化されており、また、動詞がほんらいのテンスをもっているのに対して、属性づけのかかわりのばあいは、動作主も特定されず、動詞も、ほんらいのテンスをうしなっている。」(高橋, 1979)[9]。(1)(2)の動詞句には「薫」「私」という特定化された主体と「以前」「過去」という相対的または絶対的テンスがある。だが、(3)(4)(5)(6)の動詞にはテンスがない。「入った」「尖った」「割れた」を「入っている」「尖っている」「割れている」におきかえても意味に違いはない。「入った」「尖った」「割れた」は変化の時点が捨象され、状態だけを表しており、「グラス」「段ボール」「鉄棒」「スプーン」の属性を表す要素になっているのである。

本稿は、上記のような内の関係の、異なる意味的なタイプ (「関係づけのかかわり」「属性づけのかかわり」) にある連体節において、交替可能なガ・ノの使用数についてその傾向を分析し、ガとノの使用と、連体動詞句と被修飾名詞の意味的なタイプとの関係を考察するものである。

なお、本稿の考察は方法論として帰納的な立場に立っている。具体的には稿末にあげる資料から収集した用例に分類を施し、その結果に基づいて考察をすすめた[10]。また、本稿では考察の対象を用例の多いヲ格とニ格そして提題の関係にある場合に限定する[11]。資料の偏りによる影響は今後必要に応じて修正していきたい[12]。

以下、次の順にガとノの使用例と使用数をみていくことにする[13][14]。

第1節　連体動詞句の動詞がタ形で、被修飾名詞がヲ格 (対象) 相当の場合
第2節　連体動詞句の動詞がル形で、被修飾名詞がヲ格 (対象) 相当の場合
第3節　連体動詞句の動詞がタ形で、被修飾名詞がニ格 (場所) 相当の場合
第4節　連体動詞句の動詞がル形で、被修飾名詞がニ格 (場所) 相当の場合
第5節　連体動詞句の動詞がタ形で、被修飾名詞が提題である場合

1．連体動詞句の動詞がタ形で、被修飾名詞がヲ格（対象）相当の場合

収集したガ・ノ交替のある動詞句の中に、絶対的テンスの例はなかったが、連体動詞句の動詞がタ形で被修飾名詞がヲ格（対象）の関係にある場合、動詞は絶対的テンス「過去」（７）または相対的テンス「以前」（１）を表している。

（７） きのう作ったカレーをまた温めて食べよう。

（BCCWJ中島義道（1999）『戦う哲学者のウィーン愛憎』角川書店）

（１） 薫の描いた自画像は、わたしがもらった。（水81）

この場合の動詞句と名詞のかかわりは、高橋（1979）に類型化された「関係づけのかかわり」になる。ここでは被修飾名詞が、特定の時におこる動作の対象であるという関係を示すものとしてある。以下、ガ・ノ交替の可能な例のうち、いずれの形を用いているか、その例と用例数をあげる。

1.1「ノ」の用例 （全72例）

（１） 薫の描いた自画像は、わたしがもらった。（水81）

（８） …彼女がね、一度、大浦さんの捨てたゴミを調べてたことがあるんです」（返事234）

（９） 母のこしらえた料理を食べ、母といっしょに風呂に入って、十二時まえに自宅に帰った。（ゆりかご170）

（10） カタログには、彼女の考えた舞台や舞台衣装の絵も載っていた。（エクソ148）

（11） 女は…考えているふうだったが、やがて真志喜の選んだ本を手に取った。（月144）

（12） 自分の負った傷の治療を一番後回しにするのが瀬名垣という男だった。（月127）

アメリカ人の生んだ学説（国境210） わたしの書いた戯曲（エクソ139） 仁子さんの作ったサラダ（ぼくは154） 宗一の立てた計画（返事55） 祖母のいれたぬるいお茶（ぼくは226） 子供たちの脱いだ靴（レイク45） 著名な文学者や芸術家の遺したレシピ集（ひと皿360） 一市民の提出した証拠物件（国境115） 私のあげたライター（夜165） 自分の持参した記事（パズル139） 翠の配ったコーヒー（ヴァン114） 荻島の置いた新聞（ヴァン40） 自分の習った日本の漢字（エクソ116） 私の聞いた録音（エクソ59） 厳重郎の愛した西洋演劇（月110） 自分の志した道（国境129） 彼の感じた違和感（レイク275） 柳さんの買った指輪（家族214） 私の受けた感銘（文明165） 私の借りた家（国境151） ほか

1.2「ガ」の用例 （全114例）

（２） ちなみに、私が書いた小説には、ドイツ語の作品も日本語の作品もある。（エクソ95）

(13) わたしが借りた家は不思議な構造をしていて、……（ひと皿267）
(14) 「俺が膨らませた妄想の一つを聞いてくれるか？……（パズル117）
(15) Sは母親がつくった大根の葉の味噌汁の味を思い出した。（家族85）
(16) 父が残した財産も、あの家だけです。（返事193）
(17) いわれた通りに錦小路を訪れた。はたして祖母が説明した場所に、ちゃんと店は存在していた。（ひと皿27）

父が建てた家（家族215） 秀美が呟いた言葉（ぼくは185） 母がつけたキムチ（ゆりかご74） 彼女が注いだ紅茶（ぼくは78） 真志喜が浮かべた笑み（月157） 未成年が起こした事件（文明219） 韓国人が築きあげた食文化（ひと皿93） 自分が記録した内容（どうせ43） 大橋が撮ったピンボケの写真（ゆりかご209） 東氏が考えた苦肉の策（ゆりかご226） 俺が贈った安物の指輪（夜242） 真志喜が出した肉じゃが（月162） かれが擁護した「女・こども」（国境268） 仁らが使った座布団（月97） 私が訪れた屋台（ひと皿121） カントが見た人間の姿（どうせ56） 彼が指さした場所（ゆりかご48） パパがかせいだお金（水99） 母親が買った豹柄のビキニパンツ（家族19） 彼女が獲得した言語技術（国境301） ほか

1.3 ガとノの使用率

関係づけのかかわりを表す場合には、「ノが72例、ガが114例」の割合で使用されており、ガを用いる傾向がある。

また、次の例のような対象に対して直接的にはたらきかける動作の場合の例には、ガの例しかなく、ガを用いる傾向が強いといえる[15)]。

(18) S子が開けたひきだしには、産着の上に桐箱があり、……（家族124）
(19) 女が開けた襖の前で、真志喜はしばしば立ち竦む。（月139）
(20) 瀬名垣がかざした本を、『無窮堂』の店主だった真志喜の父親はちらりと見た。（月68）
(21) 瀬名垣は真志喜を見、真志喜が手にした本を見た。（月138）
(22) けれど、ぼくが蹴ったボールは、いつも部屋に転がっているし、ぼくが書いた落書きもロッカーのドアにある。（ぼくは174）

2．連体動詞句の動詞がル形で、被修飾名詞がヲ格（対象）相当の場合

この場合にも次の例のように、連体動詞句の動詞が絶対的テンス「未来」(23)、相対的テンス「同時」(24)「以後」(25) を表すものがある。

(23)「四土というのは、仏の住む世界である浄土プラス仏がこれから教化する世界全てを指すんだ。……」(パズル68)

(24) 俊介はドアを開けた。妻の持つ鋏の先端を見つめながら廊下に出た。(レイク265)

(25) 次に母親が言う言葉に予想がついて、息苦しくなった。

(BCCWJ金田えびな(2001)『恋人の値段』雄飛)

しかしながら、ほとんどが次の例(26)(27)のように、動詞の表す動作は時間軸上におこるできごとではなく、したがって動詞にテンスはない。

(26) 僕が知っている限り、神谷さんの作る漫才は誰もが知っている言葉を用いて、想像もつかないような破壊を実践するものだから、……(火花39)

(27) 男は料理上手だったが、ママが作る料理とはずいぶん異なっていた。(水57)

このような場合には動詞句が被修飾名詞のもつ一般的な性質、つまり属性を表しており、連体動詞句と被修飾名詞のかかわりとしては、「属性づけのかかわり」をなしている。以下、ガ・ノ交替の可能な例のうち、いずれの形を用いているか、その例と用例数をあげる。この場合は、ガとノの表す主体が、人((28)〜(31)、(35)〜(38))だけではなく非情物((32)〜(34)、(39)〜(41))であることも多いので、分けて提示する。

2.1「ノ」の用例 (全68例)

(28) だが、トルストイやウェーバーの挙げる哲学的問いは、私の信じる哲学的問いのかたちから微妙にずれている。(どうせ31)

(29)「きみの書く家族の話はマンネリだな。……」(家族215)

(30) ぼくは、女の人の付ける香水が好きだ。……(ぼくは151)

(31)「いや、君のいれるお茶はいつもぬるいからさ。……」(返事111)

彼の持つ思いやりとやさしさ(返事310) トルコ人の経営する食料品店(エクソ123) 私の主宰する哲学塾(どうせ89) 出版社の社長のする質問(エクソ39) 娘のうける苦痛(国境121) 日本人の話すドイツ語(エクソ143) 教師の言う言葉(ぼくは82) 自分の希望するポジション(返事49) 作家の書くドイツ語(エクソ129) 自分の使う言語(エクソ27) 私の感ずる有り難味(文明85) 自分の担当する地域(国境129) 人間の食べる物(どうせ85) 彼の望む言葉(月77) 自分の吐く溜め息(家族189) ほか(全44例)

(32) ……もし肉に振りかけるものがあったとしても塩とレモンくらいで、素材のもつ単純な美味しさをシックに引き出すことが第一義とされている。(ひとⅢ265)

(33) 時と共に朽ちていく品々の見せる微妙な色合い。それは彼が今までに見たことのない

不思議な色をしていた。（パズル56）

（34） 料理の異常な洗練のほか、もうひとつもっと困るのは、人工的な大量栽培や大量飼育のもたらす現代式の不安である。（文明259）

文学そのものの持つ移民性（エクソ129） 肝のもつ苦味（ひと皿347） からだの話す言語（エクソ198） 言葉の含む情報（エクソ146） ＣＤ機の発行する支払い伝票（返事50） 古書の発する慎ましい囁き（月131） それらの本の発する声（月36） 聖書の説く七つの大罪（ひと皿270） テレヴィゲームの追求する或る種のリアリズム（文明35） 潜在的劣等感の巻き起こすストレス（エクソ13） 恋愛の創り出す芸術（ぼくは84） ほか（全24例）

2.2「ガ」の用例 （全41例）

（35） それぞれの人間が、過去にどのような町に住み、どのような人たちとどのような会話を交わしながら生きてきたか、ということは、その人が今話す言葉の中に記憶されている。（エクソ143）

（36） 校門をくぐると私が吸う空気はどこにもなくなり、……私は呼吸困難におちいり、たおれた。（ゆりかご174）

（37） 水槽の底には芋虫が食べる菜をしきつめた。（ゆりかご33）

（38） 佐保は店におとずれる客たちがくりひろげる悲喜劇を観察しているのだが、外が吹雪になり電車がとまったということを知って狂喜する。（ゆりかご237）

叔父が経営するカフェバー（ゆりかご236） 人々が見せる身振り（ひと皿273） 貧しい女性が最初に選ぶ職業（国境146） 一家が毎日三度とる食事（ひと皿34） 彼女が使う生活言語（国境301） 人間が誘導するミサイル（国境236） 近所のひとがすすめる老人の会（家族176） 母親が語る家族の話（家族142） 上田さんが気に入る映画（夜228） 私が主宰する哲学塾（どうせ183） 日本速記協会が主催する速記技能検定試験（返事76） ニューヨーク・タイムズが描く不可思議な日本（国境182） ほか（全34例）

（39） ……内陸の都市ということもあり、食文化の領域にあって魚介類が占める割合はきわめて貧しいものであった。（ひと皿125）

（40） ここには、（鷲田さんのような）感受性のマジョリティがもつ共通の死角がある。（どうせ146）

（41） セネカによれば快楽主義者の祖であるエピクロスは、富がもたらす心配から解放されるためには貧乏などいささかも怖れるところではないと説いた。（ひと皿108）

そのミスが引き起こす大騒動（返事158）　イタリアと日本が見せるこの類似（ひと皿319）　土が提供する栄養（文明235）　被征服者の男性の植民地的なアイデンティティがとる「語り」の形式（国境91）（全７例）

2.3 ガとノの使用率

「ノが68例　ガが41例」の割合で使用されている。連体動詞句の動詞にテンスがなく、被修飾名詞が表すモノの一般的な性質を表す「属性づけのかかわり」になると、ガよりもノを用いることが多くなっている。

３．連体動詞句の動詞がタ形で、被修飾名詞が二格（場所）相当の場合

この場合にも次の例のように、連体動詞句の動詞が絶対的テンス「過去」(42)、相対的テンステンス「以前」(43) を表すものがある。

(42)　農道のほうに突き出すようにして、南北に長方形の店舗部分が張り出している。先ほど瀬名垣の上がり込んだ店と、それに続く書庫だ。(月14)

(43)　わたしが入ったイタリア料理店では、パスタのために色の違う五種類のソースが準備されていた。(ひと皿216)

しかしながら、連体動詞句内の主体が人ではなくモノの例では、動詞の表す動作（ここでは変化）が、時間軸上におこるできごととしてとらえられておらず、動詞にテンスはない。動詞は変化がおこったあとの状態を表しており、次の例のようにシタの形をシテイルの形におきかえていうことが可能である。

（３）　ひっきりなしに煙草を吸い、ときおり日本酒の入ったグラスを口に運びながら松原の話に耳をかたむけていた東氏は……（日本酒の入っているグラス）　（ゆりかご219）

（４）　缶詰が入った段ボールはとうていひとりでは持ちあげられないほど重く……
（缶詰が入っている段ボール）　（ゆりかご243）

このような動詞句は被修飾名詞とのかかわりにおいて、状態としての属性を表す「属性づけのかかわり」をなしている。以下、ガ・ノ交替の可能な例のうち、いずれの形を用いているか、その例と用例数をあげる。

3.1「ノ」の用例　（全66例）

(44)　秀美は、溜息をついて煮魚やマカロニサラダの並んだ食卓を見詰めた。(ぼくは228)

(45)　太めの作業員が、もう顎から汗を滴らせながら、キャスターのついた運搬台を、後ろのトラックの荷台から降ろしている。(返事156)

(46) 最初、空だった水槽のなかにひたひたと水が入ってくる。穴の開いた船に海水が入るように。(家族14)

(47) ……ガスの充満した室内で男女が血を流して倒れているのを……(ヴァン39)

(48) ……帰宅するやいなや、カギのかかった家のなかで電話が鳴りひびいて(ゆりかご60)

悲しみと懐かしさの入り混じった感情(ひと皿361) 髪の毛のからみついたブラシ(返事291) 体温のこもった布団(水231) ウェイヴのかかった髪(ぼくは77) 火のついたダルマストーブ(ゆりかご20) 菊の御紋のついた恩賜の盃(国境113) 引き出しのついた収納棚(レイク98) 店名の入った黒いエプロン(火花88) 沢山のお金の入った財布(ぼくは201) ひびの入った碗(水14) 汚れた食器の載ったワゴン(ヴァン17) 鳥やシャチの声の入ったカセット(エクソ135) 苦笑の残った顔(レイク21) 綿の詰まった人形(ヴァン217) あきらめの滲んだ口調(パズル65) 小さな石のはまった指輪(夜223) ほか

3.2「ガ」の用例 (全12例)

(49) 私は……道化役にきまった。母の仕事用の赤い網タイツ、スパンコールがついたレースのブラウスを衣装に決め、道化の台詞を大幅に書き増やした。(ゆりかご123)

(50) 父は……景品交換をしている店員から道具(ひとつは銀色の小さなトンカチ。もうひとつは先端にパチンコ玉がくっついた棒)を受けとり、……(家族186)

(51) さまざまな残骸が積み重なった廊下の奥に人影を見たような気がした。(パズル55)

(52) 焼鳥の「いせや」の脇の階段をくだり、霧がかかった木々の中を歩いて行くと、煌々と輝く自動販売機に自然と足が向いた。(火花81)

泥はねがついたスポーツウエア(返事196) あなたの名前が付いた賞(火花179) 煮たった味噌汁が入った鍋(ゆりかご30) 居酒屋の何軒も入った雑居ビル(火花54) いくつもの丸い穴があいた鉄板(ひと皿276) ほか

3.3 ガとノの使用率

「ノが66例 ガが12例」の割合で使用されている。同じく「属性づけのかかわり」を表す場合であるが、第2節の連体動詞句が一般的な性質を表す場合にくらべて、状態を表す場合のほうがさらにノを用いる傾向が強くなっている。

なお、動詞句内で受動態が用いられ、ガ・ノが動作の対象を表す場合では、ガを用いる傾向があるようである。ノの例が2例(53)(54)であったのに対して、ガの例は(55)〜(57)を含め11例であった。

(53)　遺跡なのだ。……人間の記憶の刻みこまれた場所なのだ。(パズル91)

(54)　水村美苗さんの『私小説』のようにアルファベットの併用された小説も現れた。(エクソ71)

(55)　その人は、虎が描かれた黒いアロハシャツを纏い、……(火花13)

(56)　真志喜はいそいそと本の山を掘り返し、パラフィン紙で一冊ずつ丁寧にカバーがかけられた函入り十三巻の全集を運び出してくる。(月11)

(57)　壁には誰かのサインが書かれた色紙が飾られていたが、……(火花13)

4．連体動詞句の動詞がル形で、被修飾名詞が二格（場所）相当の場合

この場合にも次の例のように、連体動詞句の動詞が相対的テンス「同時」(58)「以後」(59)を表すものがある。しかし、多くはない。

(58)　部活帰りの女学生達が笑いながら僕達の座るベンチの前を横切っていく。(火花66)

(59)　僕達が出演する最後の事務所ライブには噂を耳にして、普段よりも多くのお客さんが駆けつけてくれた。(火花142)

主体が人の場合には、動詞「通う」「つとめる」「住む」「いる」などが用いられ、動詞句は主体の動作の繰り返しや存在を表している。

(60)　ある日、「頑張ってるお姉ちゃん、見に行こう」と、僕を保育所まで迎えにきた母に連れられ、姉の通うヤマハの教室を覗きに行くと、……(火花27)

(61)　父は……ルビーの指輪を買い、母の棲む鎌倉に車を走らせた。(家族214)

(62)　ウィーンは、ほとんど完全に二〇年前と同じたたずまいである。グリンツィングの銀行も、その横の少々小便臭いカフェも、態度の悪い局員がいる郵便局も、向かいの豚のようなおばさんのいる肉屋も、みんなその時のまま。(どうせ164)

(63)　近辺には母の男、大橋がつとめるH電機の工場が林立していた。そのマンションの住人も大多数はH電機の社員と家族だった。しかも彼の家族がすむ家も目と鼻の先にあった。(ゆりかご170)

ガ・ノが表す主体がモノになると、連体動詞句の動詞は被修飾名詞の状態を表し、状態としての属性を表す「属性づけのかかわり」でかかわっている。状態を表しているので動詞句の動詞をシテイル形におきかえることができる。

(64)　不信感のこもる目で私をじっと見ていたのは、……(ゆりかご180)

(65)　私は喜び勇んで、落ち葉が積もってできた柔らかい庭の上を踏みしめ、ツタの這う重厚な屋敷の煉瓦を掌で確かめた。(月212)

(66)　みすずは真志喜の腕を引っぱるようにして、屋台の立ち並ぶ参道へ導いた。(月224)

(67) 荻島は煙がしみて涙が滲む目で妻を見た。(ヴァン219)

(68) 美しい薔薇が咲き誇る庭園のカフェでミントティーを注文すると、なるほど優雅な気分に満ち満ちてくる。(ひとⅢ199)

(69) 高層ビルが並ぶ表通りとはまったく異なったピョンヤンが、そこにはあった。

(ひとⅢ111)

また、ガ・ノが表す主体がモノの場合、動詞「ある」が用いられる例が多いが、使用に差がみられるので、以下にこの用例と数をあげる。この場合、連体動詞句の動詞が表す意味には、被飾名詞が表す場所に主体が物理的に存在する場合(70)(71)と、特徴として備わっている場合(72)(73)がある。

(70) 子供だったわたしのためにはわざわざ子供用の、段と肘掛けのある椅子が準備されていた。(ひとⅢ30)

(71) 当時は小さな湖があるただの山だったが、のちに<港北ニュータウン>として開発され、バブル時には二億近い値がつけられた。(ゆりかご96)

(72) 薄暗い店内にいくつか置かれた照明が、温もりのある灯りで白い壁を照らした。

(火花37)

(73) こうして一長一短がある他の肉と比べてみたとき、豚の卓越性は否定しようがない。

(ひとⅢ333)

この場合の連体動詞句は内在・特徴という属性的な意味で、被修飾名詞と「属性づけのかかわり」をなしている。

4.1「～ノアル」の用例 (全77例)

<内在>(全22例)

(70) 子供だったわたしのためにはわざわざ子供用の、段と肘掛けのある椅子が準備されていた。(ひとⅢ30)

(74) 夏休みには、一か月ほどイングランドの寄宿舎のある英語学校に通う。(どうせ167)

(75) この節のある固い体に、薬品を注射器で注入するのだ。(月59)

(76) 「いえ、本のあるところならどこへでも。瀬名垣です」(月81)

植込みのある小さな公園(国境91) 米軍基地のある市(ぼくは53) 川のある町(水246) 仕掛けた電話のある部屋(返事190) ＣＤ機のある支店(返事57) コンピュータのあるマンションの部屋(返事51) 庭のある一軒家(家族152)ほか

＜特徴＞（全55例）

（72）　薄暗い店内にいくつか置かれた照明が、温もりのある灯りで白い壁を照らした。（火花37）

（77）　……想像していたよりも、品のあるアパートだった。（火花49）

（78）　一般的にイタリアでは、リストランテではイタリア料理として格式のあるさまざまに複雑な料理を供するが、……（ひと皿266）

（79）　多くの者がより豊かなより生きがいのある生活を求め、必死に勉学に励んでいた。（どうせ95）

（80）　……思えばいろいろな光線がマンの作品の中にはあったが、非常に特徴のあるカリフォルニアの光線に作品内で出逢った記憶がない。（エクソ26）

歯ごたえのある豆腐乾（ひと皿150）　意味のある人生（どうせ202）　つやのある長い髪（ぼくは136）　張りのある肌（ヴァン63）　迫力のある食べもの（ひと皿265）　徴兵制のある国（国境43）　格差のある社会（国境147）　白い光沢のある長袖ブラウス（ヴァン187）　欠陥のある方法（返事39）　余裕のある笑み（夜131）　説得力のあるストーリー（返事308）　深みのある瞳（夜15）　活気のある魚市場（ひと皿126）　皺のある生き物（エクソ52）　勢いのある字（家族34）　癖のある香り（パズル90）　魅力のある場所（パズル90）　価値のある本（月94）　余裕のある境遇（返事181）　艶のある表情（火花44）　ほか

4.2「～ガアル」（全４例）

＜内在＞[16]（２例）

（71）　当時は小さな湖があるただの山だったが、……（ゆりかご96）

（81）　スイスは公用語が四つある国である。（エクソ58）

＜特徴＞（２例）

（73）　こうして一長一短がある他の肉と比べてみたとき、豚の卓越性は……（ひと皿333）

（82）　……〝ストーカー的要素が少しでもある行為を、あなたが今までに一度もしたことが無いとは……絶対に言わせない！〟とつぶやいている。（夜248）

4.3 ガとノの使用率

連体動詞句の動詞が「ある」の場合、「ノが77例　ガが４例」の割合で使用されている。連体動詞句が内在・特徴を表す「属性づけのかかわり」になると、さらにノを用いる傾向が強くなっている。

また、被修飾名詞が人であり、連体動詞句が「ある」の形で特徴を表す場合も、主体はノを

用いる傾向が強い。以下の（83）～（85）を含め全13例がノの用例であるのに対し、ガの用例は１例（86）であった。

（83） 右を向いて眠る癖のある彼は、まるで翠を全身で拒絶するように、広い背中を見せたまま、大きないびきをかく。（ヴァン87）

（84）「さぞかし心の広い、度胸のある子供に育ったろうな」（パズル59）

（85） 地下鉄よりは時間がかかるが、余裕のある人にはバスのほうが安全で……（国境190）

へそ曲がりなところのある彼（夜237） 貫禄のある中年教授（ひと皿91） 才能のある人（どうせ75） 強い方言色のある俳優（エクソ90） 将来性のある芸人（火花146）ほか

（86） お客さん投票なので、人気がある芸人や、お客さんを沢山呼んだ芸人が有利だ…（火花76）

５．連体動詞句の動詞がタ形で、被修飾名詞が提題である場合[17)]

次の例のように、ガ・ノが表すモノと被修飾名詞が「部分 - 全体」（「先 - 鉄棒」「先 - スプーン」）の関係にあり、被修飾名詞がいわゆる提題の関係にある場合がある。

（５） 少年は先の尖った鉄棒が連なってできた門を、両手で握りしめた。（月198）
（その鉄棒は先が尖っている）

（６） 食器といえば先が割れたスプーンで、これはフォークの役目もはたす……（ひと皿313）
（そのスプーンは先が割れている）

この場合は、先の第３節と同じように、連体動詞句の動詞が状態（＝シテイルの形におきかえ可能）を表していて、被修飾名詞と「属性づけのかかわり」でかかわっている。以下、その用例と用例数をみてみよう。被修飾名詞がモノの場合と人の場合がある。

5.1「ノ」の用例 （全42例）

＜連体動詞句がモノの状態を表す場合＞（全32例）

（５） 少年は先の尖った鉄棒が連なってできた門を、両手で握りしめた。（月198）

（87） ……かなり白髪の増えた頭をきちんと撫でつけて、穏やかな表情の彼……（ヴァン250）

（88） 胸元のあいた黒いワンピースを着ている彼女は、遠くから見ると、……（夜150）

（89） 母はかかとのすり減った赤いハイヒールでカツカツと歩き、……（ゆりかご113）

（90） 皮膚のたるんだ頬を力なくさすりながら、荻島は深々とため息を……（ヴァン214）

爪の伸びた手（ヴァン55）　空気の抜けたゴムボール（パズル58）　毛布の擦り切れた寝台（ひと皿236）　人通りの途絶えた道（夜113）　血の気の失せた顔（月128）　冷房のきいた室内（ひと皿159）　背表紙のめくれたアルバム（ゆりかご117）　つやの失せたコート（返事82）　様子の変った服装（火花83）　目尻の下がった顔（返事117）　色のあせたTシャツ（ぼくは180）　造りのしっかりした五階建てのビル（レイク139）　ほか

＜連体動詞句が人の状態を表す場合＞（全10例）

（91）　五分前に着き、まだ陵は来ていないだろうと振り向いたら、あごのとがった陵がすぐうしろにいて、驚いた。（水28）

（92）　庭にいた男がやってきた。額の後退した、痩せた男だ。（レイク32）

（93）　満寿子さんは、頬のふっくらとした、色白な人である。（水85）

髪のはえそろったあかんぼう（水40）　力の抜けた真志喜（月123）　頬に大きなしみのできた里江子（ヴァン43）　ほか

5.2「ガ」の用例　（全12例）

＜連体動詞句がモノの状態を表す場合＞（８例）

（６）　食器といえば先が割れたスプーンで、これはフォークの役目もはたす重宝な発明だと説明されていた。（ひと皿313）

（94）　確かに、石造りの天井がアーチ状になった細い通路の先にぽっかりと出口が見える。（パズル62）

（95）　後藤は涼しい顔でフェンスをよじ登りはじめた。……根元のほうが錆び付いたフェンスは、二人の体重を受け、嵐に遭った舟のマストのように揺れた。（月186）

（96）　さびた乳母車、音のしないがらがら、手足がもげた人形、私はコモがひろってきたもので遊んだ。（ゆりかご26）

傘の色がいささか黄色がかった毒茸（ひと皿70）　天井が剥落した部屋（水237）　色が透けかかった大根（ひと皿22）　形がくずれた卵焼き（家族159）

＜連体動詞句が人の状態を表す場合＞（４例）

（97）　…めっきり髪が白くなった満寿子さんを加えた六人で昼食をとったのである。（水95）

（98）　楓に色を塗るのは、片方の靴下に穴が開いたままの、前歯が一本欠けたおっちゃんや。（火花116）

(99) 「……昔とちがって年がいった生徒はあまりいないんです」(家族69)

(100) コモは十九歳のときに私生児として男の子を産み、世間の目を気にして両親の籍にいれたので、表むきは歳がはなれた姉ということになってしまった。(ゆりかご23)

5.3 ガとノの使用率

ガ・ノが表すモノと被修飾名詞が「部分 - 全体」の関係にあり、被修飾名詞がいわゆる提題の関係にある場合には、「ノが42例　ガが12例」の割合で使用されている。この場合の連体動詞句と被修飾名詞のかかわりは、状態を表す「属性づけのかかわり」である。[18)]

6. まとめ

第1節から第5節でみてきた連体動詞句と被修飾名詞のかかわりの類型と、ガ・ノの使用例数をまとめると次のようになる。

	ノ	ガ	使用率(%) ノ	ガ
1. 関係づけのかかわり	72例	114例	39	61
2. 一般―属性づけのかかわり	68例	41例	62	38
3. 状態―属性づけのかかわり	66例	12例	85	15
4. 内在・特徴―属性づけのかかわり	77例	4例	95	5
5. 状態―属性づけのかかわり	42例	12例	78	22

連体動詞句の動詞にテンスがあり、被修飾名詞と「関係づけのかかわり」にあるとき、動詞句内の主体はノよりもガを用いる傾向にある。また、連体動詞句の動詞にテンスがなく、被修飾名詞と「属性づけのかかわり」にあるときは、ガよりもノを用いる。

「属性づけのかかわり」には属性が被修飾名詞の一般的な動作を表す場合(「日本人 の/が 話すドイツ語」)、状態を表す場合(「穴 の/が あいたズボン」)、内在・特徴を表す場合(「つや の/が ある髪」があるが、順に「ノ」の使用率が高くなる。

高橋(1979)は属性づけのかかわりを、①「動作=属性づけのかかわり」②「状態=属性づけのかかわり」③「対物=属性づけのかかわり」の三つにタイプ分けしている[19)]。本稿で分析した用例のうち、「一般―属性づけのかかわり」は①、「状態―属性づけのかかわり」は②、「内在・特徴―属性づけのかかわり」は③の例に含まれるものである。高橋(1979)は①「動作=属性づけのかかわり」の動詞句は特定の動作を表しているわけではないが、動作がなくなっているわけではなく、②③の場合にくらべて動詞のもつ性質(たとえばヴァレンシー)がかなり残っているとし[20)]、①のタイプの属性づけのかかわりが「関係づけのかかわり」に近いことを

示唆している。この点、ガとノの使用率のうえで、「一般―属性づけのかかわり」が他の属性づけにくらべてガの使用率が高くなっている、つまり「関係づけのかかわり」の使用傾向に近くなっていることと合致している。

なお、本稿では現代語という共時的な観点から考察をおこなった。通時的な観点からは山田（2010）に、鎌倉期から近世初期における連体節内の主語表示の「ノ」から「ガ」への拡がりについて、連体節内のそれぞれの述語において全体的に「ガ」の拡がりが確認されるのではなく、他動詞述語、非能格自動詞述語においてのみ「ガ」の拡がりが顕著であり、非対格自動詞・形容詞においてはその進出が見られない、という興味深い指摘[21]がある。通時的な観点をふまえた考察は今後の課題としたい。

謝辞　本研究は、JSPS科研費16K02745の成果の一部である。

注

1）ガ・ノは主体のほか次のように対象を表す場合がある。

（101）　……ソルブ語の話せる人は恐らく全部で三千人くらいだろう……（エクソ101）

（102）　勉強しないのに勉強ができる自分も、なんだかいやだった。（水132）

2）大島（1999）は主節に対して“従”か否かによって、ガとノの使用の意味的な差異をとらえており（大島, 2010, pp.63-83）、文のレベルでは、両者の間に差異のあることがわかる。

「僕　が/の　言うとおりに行動してください。」では「が」を用いた方が「僕が（これから）言います」ということを積極的に主張している（大島, 2010, p.83）。

3）次のような場合には、ノが動作の主体を表すのではなく、「信彦の」「スプーンの」が後の名詞「驚いた顔」「濡れた裏側」にかかる修飾語となっている。この場合はガに置き換えられない。

（103）　――ええっ、君、明日からいなくなるの？　信彦の驚いた顔が思い出される。（夜43）

（104）　韓国人はスプーンの濡れた裏側に塩をつけていくたびもスープのなかで掻き混ぜては、微妙に味を調整する。（ひと皿95）

4）このほか連体節の述語が形容詞の場合にもガ・ノ交替がおこる。

（105）　ウィーン、と自動ドアが開いて、喫茶店に制服を着た背の高い少年が入ってきた。

（BCCWJ片山奈保子（2004）『シャドー・イーグル』集英社）

（106）　ペインさんは背が高い人だったんですね？」

（BCCWJ島田荘司（1994）『暗闇坂の人喰いの木』講談社）

5）形式名詞（107）（108）や準体助詞「の」（109）（110）がつくる連体節でも交替がおこる。

（107）　あんたの言った通りよ。私は、人に愛される自分てのが好みなのよ。（ぼくは152）

（108）「並木さんが見抜いたとおりですよ。あの時我々の行動の裏で、津久見先生がいろいろとバッ

クアップをしてくださっていたんです。（レイク250）

（109） ……芝居のできる空間が幾つかある。「サンチョ・パンサ」の上演されたのはその中でも工場廃墟のような雰囲気の強く残っている空間だった。（エクソ140）

（110） 翌日、ぼくが登校するのを待ちかねたように、真理がやって来た。（ぼくは170）

形式名詞がつくる連体節では、すべての場合にガ・ノの交替がおこるわけではなく、次のような例ではノが用いられない。

（111） M子が五、六歳のころ、あなたが入院したために保育園の送り迎えをしたし……（家族169）

（112） 彼女の視線の先には、哀れな山下がいるはずだった。（ヴァン27）

（113） ……こういうことには第三者が入ったほうがいいものなんだ。（レイク150）

また、新屋（1989）において、文末名詞（連体部を必須とし、コピュラを伴って文末に位置し、主語と同値または包含関係にない名詞）の場合、修飾句の中のガをノに変えられないことが多いと指摘されている。

彼ハ自分ガ立候補スル意向ダ → ？彼ハ自分ノ立候補スル意向ダ （新屋, 1989, p.77）

6）次のように、ガ・ノの交替が、連体節内で用いる複合述語の中で起こることがある。

（114） その体験を自分のことばで語ることのできる石川さんのような存在が……（国境80）

（115） ……当時でさえ、自分の使う言語を替えたいと思った作家、或いは替えることができた作家は、ほんの少ししかいなかった。（エクソ27）

（116） メキシコで暮らしたことのある鶴見俊輔さんと長田弘さんが対談（国境72）

（117） 好きになった人の名前をインターネットの検索サイトにかけてみたことがある人も、少なくないことでしょう。（夜246）

7）本稿でとりあげる被修飾名詞には、「自分の習った日本の漢字（エクソ116）」「格式のあるさまざまに複雑な料理（ひと皿266）」「祖母のいれたぬるいお茶（ぼくは226）」のような、他の連体修飾要素を伴うものも含む。連体動詞句と他の連体修飾要素との意味関係の分析は、本稿の考察に直接影響を与えるものではないので、ここではとりあえず措く。

8）外の関係、すなわち連体動詞句の動詞と被修飾名詞の間に格関係が成立していない場合でもガ・ノの交替がおこる。

（118） 建築物になるといっても、……、むしろみんなの帰った後の工事現場で、パイプや板や釘が月の光を浴びて、勝手に踊り狂っている光景が思い浮かんだ。（エクソ148）

（119） 瀬名垣が帰った後に、何事もなかったかのように菜園に生えている雑草を見つけたとき、……（月38）

（120） 夏の終る気配を夜の空気に感じて、それを彼女に告げたくなったのだ。（ぼくは59）

（121） 周りは少し白み始めていたが、湖畔の店が開く気配はない。（レイク101）

（122） ……雨音がはげしくなると、水のはねかえる音がうるさくて……（ゆりかご33）

（123） 台所からは鍋が煮立つ音が聞こえていた。（火花88）

9）高橋1994所収 p.346

10）論を進めていくうえで必要な用例がない場合には、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）から例を採用している。

11）ヲ格ニ格以外の、内の関係をつくる格関係には次のようなでデ格（124）（125）、ト格（126）（127）、カラ格（128）（129）があるが、考察を加えられるだけの用例が資料から収集されていないので、本稿では扱わない。これらの格関係については今後の検討課題とする。

（124）　恭一郎は彼女達の待つ家に戻る。（ヴァン169）

（125）　彼女が働く商事会社のロビーで、背後には人が忙しく往来し、……（返事229）

（126）　ちなみに彼の画名の「喜多」は、彼の結婚した女性が能の喜多流の関係者であることから……

（BCCWJ北原童夢（2003）『奇譚クラブ』河出書房新社）

（127）　彼女が結婚した夫は工務店に勤め、その生家は関東近郊の小都市で商店を営んでいた。

（BCCWJ香山リカ（2005）『＜雅子さま＞はあなたと一緒に泣いている』筑摩書房）

（128）　……勉たちにも勧めてから、三井氏は湯気のたつカップを手に取った。（返事195）

（129）　まだ湯気が立つ熱い蟹を祖父のもとへはこんだ。

（BCCWJ小島笙（2001）『ジャガタラお春』海鳥社）

12）先行研究では、ガ・ノの交替について、構文的な観点からその使い分けや意味の違いを考察するものが散見されるが、連体節を単位として、名詞への修飾関係の類型とガ・ノの交替について論じたものはない。

13）本稿ではヲ格が動作の対象を、ニ格が付着する場所を表す場合にかぎって考察し、ヲ格が起点を表したり（130）、ニ格が対象を表す場合（131）など、他の意味関係を表す場合は扱わない。

（130）　自分の出た東大や慶応や早稲田の学生のみを基準にして、「このごろの学生は本を読まない、教養がない」と嘆き悲しむセンセイ……（どうせ96）

（131）「その、仁子の惚れた男というのは、そんなに良い男なのかな？」（ぼくは101）

14）連体動詞句内において、ガ格と動詞の間に他の格関係を表す名詞を伴う場合には、ノが用いられる用例がみあたらないので、次のような例は考察の対象になっていない。

（132）　武治さんが手紙で指定した店に、陵と二人で行った。（水153）

（133）　……妹が誕生日に父からもらった時計をハンメは質に入れてしまった。（家族203）

（134）　……玄関口では女が犬を呼ぶ柔らかい声が聞こえる。（月130）

15）次のような、人に対するはたらきかけを表す動詞の場合（135）（136）と、非情物が主体の連体動詞句の場合（137）（138）も、ノが１例に対してガの例がそれぞれ５例あった。

（135）　わたしの教えたコレヒオの学生たちはレポートや宿題に追われていて、いつも「忙しい」が口癖で、ちっとも「メキシコ人らしく」ない。（国境74）

（136）　わたしが教えた学生たちは居酒屋に入っても、茄子の漬ものを注文するさいに、小立野の茄子にしてほしいと、さりげなく一言添えることを忘れなかった。（ひと皿62）

（137）　Ｊリーグ創設のためにあの漫画の果たした間接的な功績を信じている。（文明117）

（138）　わたしが日本の新聞に書いた短いエッセイとそれがまきおこした波紋を、……先方が知っ

ていて仰天したことがあった。（国境203）

なお、本稿では次のような組織や乗り物は人相当の主体として扱っている。

（139）「電鉄会社が開発した分譲地だったこのあたりは、……」（水60）

（140）「……翌日、機体が墜落した場所が特定されると、……」（水182）

16）次のような、主体が個別特定（「父のパチンコ店」）の場合には、連体動詞句は属性を表すのではなく、被修飾名詞（「横浜の黄金町」）との事実関係を表している。

（141） 父のパチンコ店がある横浜の黄金町という場所は、昔よく「太陽にほえろ」のロケにつかわれた、……（ゆりかご191）

17）次のような連体動詞句の動詞がル形で、被修飾名詞が提題である場合については、用例数が十分ではないので本稿では扱わない。この場合を含め、被修飾名詞が提題である場合の位置づけについては今後の検討課題である。

（142） 食堂によっては、いささか値段の張る三鮮チャジャンミョンをメニューに載せているところもある。（ひと皿98）

（143） 弟の通っている成美幼稚園は黄色いスモックに、組ごとに色のちがうベレー帽があり、うらやましかった。（ゆりかご35）

18）ガ・ノが表すモノと被修飾名詞に「部分-全体」の関係はないが、被修飾名詞を提題としてとらえることができる例や慣用的な使い方があり、同じく被修飾名詞の状態を表す「属性づけのかかわり」をなしている。

（144） わたしは自分の人生のなかに、このような効率と気迫の混じりあったレストランがいくつかあったなあと考えてみた。（ひと皿390）

（145） ところが、人気のない食堂に入ると、焼いて相当に時間の経ったピタが卓に出されることがある。（ひと皿321）

（146）「へ？」仁科は間の抜けた声を出し、あわててしゃんと背筋を伸ばした。（返事239）

（147） 気の利いた返事をしようと思ったが、……（夜243）

19）高橋（1994）所収 p.361

20）高橋（1994）所収 p.363

21）山田（2010）p.213

参考文献

大島資生（1999）「現代語における主格の「の」について」『国語学』199 pp.28-40 国語学会　大島（2010）所収

――――（2010）『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房 pp.63-83

新屋映子（1989）「‘文末名詞’について」『国語学』159 pp.1-14 国語学会　新屋（2014）所収

――――（2014）『日本語の名詞指向性の研究』pp.85-102 ひつじ書房
寺村秀夫（1975-1978）「連体修飾のシンタクスと意味（1)-(4)」『日本語・日本文化』大阪外国語大学留学生別科　寺村（1992）所収
――――（1982）『シンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
――――（1992）『寺村秀夫論文集Ⅰ――日本語文法編――』pp.157-320 くろしお出版
高橋太郎（1979）「連体動詞句と名詞のかかわりあいについての序説」『言語の研究』pp.75-172 むぎ書房
高橋（1994）所収
――――（1994）『動詞の研究　動詞の動詞らしさの発展と消失』pp.323-420 むぎ書房
山田昌裕（2010）『格助詞「ガ」の通時的研究』ひつじ書房

用例出典　（下線部は引証における出典の省略形を表す。本文中の数字は出所ページである）

恩田陸（2000）『puzzleパズル』祥伝社文庫/乃南アサ（1998）『夜離れ』幻冬舎文庫/上野千鶴子（2007）『国境お構いなし』朝日文庫/柳美里（1997）『家族の標本』角川文庫/山田詠美（1993）『ぼくは勉強ができない』新潮文庫/四方田犬彦（2013）『ひと皿の記憶』ちくま文庫/平野啓一郎（2006）『文明の憂鬱』新潮文庫/柳美里（1997）『水辺のゆりかご』角川文庫/東野圭吾（2002）『レイクサイド』文春文庫/宮部みゆき（1991）『返事はいらない』新潮文庫/三浦しをん（2004）『月魚』角川文庫/川上弘美（2014）『水声』文春文庫/乃南アサ（2004）『ヴァンサンカンまでに』新潮文庫/中島義道（2008）『どうせ死んでしまうのに、なぜいま死んではいけないのか？』角川文庫/多和田葉子（2003）『エクソフォニー母語の外へ出る旅』岩波現代文庫/又吉直樹（2015）『火花』文春文庫
国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ：Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)』

（みつのぶ・ひとみ　英語国際学部准教授）